

高等学校における道德教育

主題名 伝統や文化をみつめ、よりよい明日を築く
資料名 「11月1日は点字の日」(出典「明日への扉Ⅱ」)
学校名 千葉県立君津高等学校 指導者 窪川 亮平

1 学習指導案

高等学校 1年 E組 道德学習指導案

平成29年11月21日(火)6校時

(1) 主題名

伝統や文化をみつめ、よりよい明日を築く

(2) ねらい

石川倉次の生き方を振り返りながら、何かを成し遂げることの大切さを学び、困難に屈しないで最後まで諦めない強い意志を育む。

(3) 主題設定の理由

フランスで作られた点字を、日本語でも使えるように研究開発した「日本点字の父」と呼ばれる石川倉次は、千葉にゆかりのある人物である。

高校生段階では、様々な経験をしながら、進路の実現に向けて前向きに取り組んでいく姿勢が必要である。しかし、多くの生徒は、困難に直面したとき、試行錯誤をするのではなく、すぐ諦めようとすることが多い。現在、視覚障害者の日常生活になくてはならないものである点字は、限られた条件の中で、試行錯誤されながら作られたものであり、石川が諦めなかったからこそあるのだということを知り、諦めずに何かを成し遂げることの大切さを学んでほしいと考え、この主題を設定した。

(4) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (10)	○「みなさんは、この点字が読めますか。」 ○「点字をどんな場所で目にしたことがありますか？」 ○「一冊の小説を点字にすると何冊になりますか？」 ○「今日のお話は点字を作った	・あいうえお、かきくけこ・・・ ・エレベーター、自動販売機、駅の切符売り場、洗濯機、炊飯器、点字ブロック等 ・4冊、5冊。 ・10冊	○意見を板書する。 ○写真を見せながら、身近にある点字を考える。 ○点字ブロックの上で立ち止まったり、違法駐輪・駐車をしない事。点字ブロックが命綱だという事を伝える。 ○実際に各班に一冊ずつ点字の資料を渡し、触って体験する。 ○点字を作る道具を実際に見せ、いくつか点字を作ってみせる。点字を簡単に説明する。 ○石川倉次が千葉にゆかり

	石川倉次という人物についてのお話です。」		のあること等、簡単に紹介する。
展開 (30)	<p>○資料を読む。</p> <p>○「石川が「6点は無理なんです」と言ったとき、どのような考えだったからでしょうか。」</p> <p>○「小西が「世界中で日本だけが、違う点字を使うことになる、まず何より世界共通の点字の道具が使えないではないか。」と石川に言ったのはどのような理由からか。」</p> <p>○「困難にぶつかっても、石川があきらめずに取り組んだのはどのような理由からでしょうか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語は48文字だから。 ・8点式の点字に確かな手応えを感じていたから。 ・使う人にとって似たような点字だと混乱するから。 ・点字を読む人の気持ちを考えると妥協したくないから。 ・世界共通の点字にしたから。 ・外国の点字は読めないのに6点にする必要がない。 ・点字を作る道具などが世界共通で使える。 ・日本以外の人と交流できないから。 ・より良い点字を作りたいから。 ・点字を必要としている人がとてもたくさんいたから。 ・どうしても日本語の点字を作るという強い意志があったから。 ・母親の名前が「ゑし」だったから。 	<p>○資料が長いので教師が範読する。</p> <p>○資料の補足をする。</p> <p>○ワークシート記入 グループワーク(6、7人) グループ内発表(全員) 自分の意見をしっかりと発表できるようにする 2グループは全体の前で発表(板書する)</p> <p>○お互いに発表し合える雰囲気を作る。</p> <p>○ワークシート記入 グループワーク</p> <p>○最初に見せた点字を打つ道具を各班に回す。</p> <p>○パソコンのキーボードなど世界共通の道具を紹介する。</p> <p>○ワークシート記入 グループワーク</p>
終末 (10)	○「今日の授業で感じたこと、学んだことを書きましょう。」	・授業を振り返り自分の考えをまとめる。	○ワークシート記入 各班の代表者が全体の前で発表し、各自の意見を尊重する。 今後の学校生活や進路に向けて考えさせる。

(5) 他の教育活動との関連

学校の日常生活では係、委員会などグループ活動が多くある。互いに協力しながら行うことで、より質の高い活動になることに気づかせたい。また、話し合い活動の中で友達の意見を大切にすること、自分の意見をきちんと発表する姿勢を育てたい。

2 事後検討会

(1) 授業記録

T 「点字をどんな場所で目にしたことがありますか？」

S 「エレベーター、自動販売機、駅の切符売り場洗濯機、炊飯器…」

S 「点字ブロック」

T 「点字ブロックには2種類あるのは知っていますか？」

S 「点々と棒状になっています」

T 「誘導ブロックと警告ブロックの2種類です」

T 「放置自転車や違法駐車が点字ブロックの上にあると、視覚障害者はそれらを避けて歩かなくてはならなくて、その時に放置自転車にぶつかってしまったり、知らずに車道に出てしまったりさらに危険な目にあう可能性が増えてしまいます。」

T 「だから点字ブロックを必要としている人のために、立ち止まったり、障害物を置かないように配慮が必要なのです」



(2) 授業の感想

(生徒の感想から)

- ・私の知らないところで苦勞している人がいることや、その人のお陰で本が読めたり、危険を回避することができたりする人達がいるということはとても凄い事なのだと思います。
- ・点字は軽くしか考えていなかったけど、今回の授業を通して点字の歴史や、苦勞が感じられました。また、石川さんの頑張りが凄いなと思いました。
- ・小さい頃から何気なくさわっていた点字が、石川さんなどたくさんの人の努力の証だということがわかりました。点字などのユニバーサルデザインのもの大切だが、自らが「大丈夫ですか？」などの声掛けで助ける事が重要だと思います。
- ・盲目の人にとっては点字が世界共通だと色々な場面で役立つのかなと思いました。目が見える人と同じように生活しやすい社会にこれからも進歩すると良いと思いました。
- ・自分は5体満足で生まれてきて、今では当たり前のように日本語を読んだり書いたりしているが、もし自分が目の不自由な人に生まれていたらと考えると、点字を開発した人は世界にとっても素晴らしいことだと思います。
- ・少し点字に興味を持ちました。今となっては当たり前にある点字だけど、たくさんの意見や考えがあって作られたのだと思いました。
- ・困難を見つけるのは簡単だけど、解決策を考えるのは難しいなと思いました。点字の背景にはたくさんの苦勞が隠れている事がわかりました。

(参観者の感想から)

- ・点字の日本語版を作成した、石川氏に関する授業でした。点字を実際に作成し、生徒に配布していたのは驚きました。困難に直面した時に、どう立ち向かうかを知るために、まず完成したものを触らせて、そこへたどり着くまでの道のりを



論す内容の展開はよかった。

- ・グループ活動が機能していて、生徒は学習しやすい環境であった。生徒の反応がとても良かった。
- ・実際に点字の書物を用意して生徒に触れさせるのはとても良いと思います。
- ・落ち着いた雰囲気の中で授業が展開されており、グループでの話し合いや個人でも「考える道徳」の時間を感じました。
- ・実際に点字に触れて考えることは大切なことであると感じました。困難を切り開くことの大切さに言及して授業を展開されていることがよくわかりました。

3 本事例の活用に関する留意点

資料について

- ・今回の資料は君津市立中央図書館から、「もっと知ろう！点字」、「点字って、なに?」、「点字どうぶつえん」、「ぼく、ブタになっちゃった」、「たのしい点字」、「ぐりとぐら」等たくさんお借りすることができ、各グループに2冊以上の資料が配付できた。生徒は点字を見かける機会はたくさんあっても、触れたことがある生徒は少なかつたため、実際触れてみると反応は違った。点字の表す意味は「あ」「い」の2文字だけにし、規則やルールなどがある。に留めたが生徒からの質問は多く、本文から逸れてしまう場面があった。
- ・教材の補足では、触覚だけでは間違えやすい配置（点の数と組み合わせ方が同じで、位置だけがずれている場合）を実際に作り、各グループで目を閉じて違いを手で読み取った。図書館の好意により、点字を書く（打つ）用具も借りることができ、生徒は用具を見ることでワークシートを発問を考えるヒントになり、実際に手作りの点字を作ることができた。



- ・小説1冊が点字6冊分になることが、字を読む事と点字を読む事の違いを視覚的に捉えさせることができた。この小説を点字にする点訳をほとんどはボランティアが行っている事など、勉強になる部分がたくさんあった。また、教材だけでなく資料も充実させることにより、内容に感情移入しやすくなり、学びに深みがでてきたと実感できた。



道徳・『11月1日は点字の日』ワークシート

平成 年 月 日 ()・第 限実施

- 1 「石川が「6点は無理なんです」と言ったとき、どのような考えだったからでしょうか。

- 2 小西が「世界中で日本だけが、違う点字を使うことになる、まず何より世界共通の点字の道具が使えないではないか。」と石川に言ったのはどのような理由からでしょうか。

- 3 困難にぶつかっても、石川があきらめずに取り組んだのはどのような理由からでしょうか。

- 4 今日の授業で感じたこと、学んだことを書きましょう。

年 組 番・氏名
